

Key Policies and Procedures

<特別な関係>

多くのAIDS・サービス組織は、同じ部署内のスタッフとボランティアや、同じプログラム・チーム内のボランティア同士の性的関係や、その他の特別な関係は、組織の発展の妨げになると捉えています。

BCPWAは客観性を重視し、もしチームの発展を妨げるような特別な関係が内部にあれば、そのうちの一人を別のチームに移すようにしています。

<未成年のボランティアに関するポリシー>

18歳以下のボランティアは、両親/法で定められた後見人の承諾の手紙を提出しなくてはなりません。

<プログラムの移動>

BCPWAプログラムのひとつから、別のプログラムに移ることを希望するボランティアは、ボランティア・コーディネーターの指示を受けなくてはなりません。ボランティアは酌量すべき理由が認められない限り、現在活動中のプログラムとの契約を完了するように言われます。

<緊急事態への対応>

もし危険な状況に陥ったら・・・

- ・どんな状況であれ、恐怖や危険を感じるその状況から逃れること
- ・腹を立てたときの自分の個人的反応に気をつけること
- ・直面する状況に陥らないようにすること

助けが必要なときは・・・

次のような方法で、Facility Coordinatorに連絡を取って下さい。

- ①電話の”スピード”ボタンを押し、019をダイヤルする。ボイス・メールの 応答を待つてから、あなたの内線番号かメッセージを残す。
- ②735-0228のポケットベルを呼び出す。
- ③Phone local 268

If all else fails call 9-1-1 以上全てがうまく行かなければ911に電話する
危険な状況に自分をさらしておくよりも、助けを求めた方が得策です。

自己防衛や安全に関する詳しい情報が必要になれば、自分の監督スタッフ、
Facility Coordinator, あるいはthe Volunteer Resources Developerに尋ねて下さい。

<注射器の取り扱い>

建物内で注射器を見つけたら、Facility Coordinatorに連絡して下さい。誰も見つけることができなかつたときは、はさむ道具と手袋を使用し、専用の容器の中に捨てて下さい。

<救急処置>

救急処置のための器具は、メインフロアのPARCの受付、又はBCPWA ヒューマン・リソース・センターで手に入ります。消火器の設置場所は建物安全マップを参照して下さい。

<事件報告>

事故、怪我、事件は全て、監督スタッフ、Facility Coordinator, the Developer of Volunteer Resourcesにできるだけ速やかに報告して下さい。そこには暴力、窃盗、脅迫行為、虐待、その他負傷の原因となった全ての行為が含まれます。

プログラム・リーダーは事件報告書に記入し、それをDeveloper of Volunteer Resourcesに提出しなくてはなりません。

Reasons for Reporting incidents 報告する理由：

- ・今後の事故防止と、その後のフォローを確実にを行うため
- ・会員、ボランティア、スタッフ及びBCPWAへの危険を最小限にするため
- ・スタッフに潜在する実際の問題を認識してもらうため

<摩擦解消>

BCPWAは全てのボランティアの待遇を公平に保つため、そして不安には即座に対応できるようにするため、摩擦解消の制度があります。

ボランティア同士、あるいはスタッフメンバーとの間に衝突が起きた場合、ボランティアは・

- ①プログラム・リーダー／監督スタッフと、不安に思っていることについて話し 合う
- ②プログラム・リーダー／監督スタッフに相談しても問題が解決しない場合、苦 情用紙に問題のあらましを書き、10日間の営業日の期間中に、監督スタッフ にそれを提出する
- ③陳情者の書類を受け取ったら、監督スタッフは問題に関与している人たちからも、問題に対応する書類の提出を求める
- ④関係者たちに面会し、問題解決のための提案を書面で行う
- ⑤苦情が7日以内に解決されない場合、問題はthe Developer of Volunteer Resourcesに引き継がれる

<Resources for New Volunteer Coordinators and Programme Leaders>

ボランティア・バンクーバーでは、トレーニング、ボランティアの照会、ボランティア関連のあらゆる話題に関するランチ・ミーティングを行っており、図書館も備えています。詳しい情報は875-9144に問い合わせして下さい。

PARC図書室と、BCPWAヒューマン・リソースには、ボランティアとリーダーシップに関する数多くの出版物が揃っています。

第3部

AIDS-NGOによる若者相互の啓発プログラム

厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告書
エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究
その5
若者相互の啓発プログラム（Young Sharing Program=YSP）の
評価方法に関するパイロット調査研究

主任研究者 五島真理為 HIV と人権・情報センター理事長
分担研究者 木下ゆり 同上名古屋支部事務局長
新庄文明 長崎大学教授
山本 勉 岡山県立大学教授
広瀬弘忠 東京女子大学教授
協力研究者 伊藤葉子 中部学院大学講師
堺本哲司 岡山理科大学大学院生
伊藤麻里子 HIV と人権・情報センター名古屋支部
ケイトリン・ストロネル 同上東京支部

研究要旨

保健所・教育機関ならびに NGO の連携のもとに行われる若者相互の啓発プログラム（YSP）の評価方法について検討した。YSP の実施前後に参加者を対象とするアンケート調査を実施することにより、参加者自身の認識や行動様式における変化を確認する可能性が明らかとなった。

YSP の取り組みは、(1)短時間で効果的な若者に対する啓発の効果が得られることのほか、(2)啓発の直接的な効果として保健所の機能についての認識と抗体検査の利用者が増加する、(3)NGO に関する認識が得られる、(4)保健所と NGO 相互の連携強化につながる、(5) 保健所・NGO 双方にとって教育機関との連携が可能になる、などの効果が期待される。

A. 研究目的

本研究は、HIV 感染予防及び人権に関する啓発を国民的レベルで進めるために、NGO(非政府組織)が行政、教育機関等との連携のもとに進める啓発活動の可能性を探り、実際に展開されている取り組みの評価を行うことを目的として実施した。

NGO による啓発活動のなかでも、若年層に対する取り組みとして、HIV と人権・情報センターは平成 10 年以来、ピア・エデュ

ケーションとしての若者相互の啓発プログラム(Young Sharing Program, 以下 YSP と略す)を開発し、2001 年 11 月末現在までに計 74 回、約 4000 名が参加、延べ約 380 名のスタッフにて実施している。今後の NGO と行政、教育機関等との連携の可能性について検討するために、このような取り組みの効果について評価することが重要である。今回は、実施前後の参加者の認識や意識の変化を評価する方法を確認するパイロットスタディとして行った。

B. 研究方法

(1) 対象

2001年(平成13年)4月から8月の間に、保健所あるいは教育機関、ならびにHIVと人権・情報センターの連携のもとに実施されたYSPの取り組みに参加した中学、高等学校学生を対照として実施した。対象は、中学2年生、中・高合同、高校1～3年生、高校3年生などの集団で、1回の実施対象は最低26名、最大130名で、対象者総数は274名であった。

(2) 方法

YSP実施の実施前と実施後に、同一項目のアンケートを実施した。また、実施後には実施した感想についての回答を求めた。アンケートは実施前後とも無記名にて実施され、回答者が自由に選択した4桁の番号の記入を求めてIDとすることにより前後を確認した。アンケートの内容はAIDSに関する知識、意識、態度等について11項目からなり、事後アンケートには、感想に関する7項目が加えた。

分析にあたっては、回答者が自由に選択した4桁のIDによって実施前後に番号の一致した161名のうち有効回答を対象とした。

(3) Young Sharing Program (YSP)の具体的内容

①事業の概要

若者自身による啓発プログラムとしてのYoung Sharing Program (YSP)は、保健所、教育機関、HIVと人権・情報センターの連携のもとに行う活動として開発され、1998年から事業を開始した。2001年度(平成13年度)には全国の29ヶ所において、参加者約2340名を対象として実施した。1998年より2002年3月までには計79回、約5000

名が参加しており、延べ約400名のスタッフが実施にかかわってきている。

実施規模・対象者は1度に10数名から300名あまりであり、小学生から社会人にまでわたって実施している。

事前に主催者の意向を汲んだ上で、実施規模、対象年齢等に応じてプログラムの内容を検討し、毎回、綿密な計画のもとに実施している。

②プログラムの特徴

YSPの特徴は、参加型のワークショップ形式で、全員が対等で一時的な関わりを持つところにある。まず、参加者を数人のグループに分け、そこにプログラム進行者であるシェアラーが加わりグループワークを取り入れながら実施する。

シェアラーは全員がHIVと人権・情報センターの電話相談員になるための初心者研修、ならびにYSPの基礎研修等を受け、実際に若い世代からの電話相談を受けており、比較的年齢層の若いボランティアである。

そのシェアラーと参加者との関係は、指導し、される関係ではなく、似通った価値観、言語、セックス・ジェネレーションにあるもの同士の対等な関わりであることが、このYSPの最も大きな特長である。また、実施まで、あるいは実施後の関係を気にしながら発言や意見交換をしなければならない関係ではなく、原則的には匿名の一時的な関わりにより、ありのままの意見や思いを吐露しやすい関係であることも大きな特長である。

③YSPの内容

プログラムの内容は、主に基本的知識の理解、感情の表出、共感的理解を中心に構成される。基本的にはプログラムの内容は以下のように構成される。

(i) 導入

目的：プログラムを進めるシェアラーと

サポートメンバーであるコーディネーターの紹介、および YSP の目的の理解を促すこと。

内容：JHC 及び YSP の紹介、シェアラーの自己紹介、YSP の目的の説明、参加にあたってのルールに関する説明。

(ii) HIV と AIDS の基礎知識

目的：正しい情報の伝達と誤った情報についての認識を深めること。

内容：HIV と AIDS の違いについての理解、HIV/AIDS に関する基本的な知識の理解、人体図やプレートを利用して、参加者を巻き込みながら基礎的な情報を確認する。

(iii) 性行為における感染の可能性

目的：性行為による HIV 感染の可能性に関する具体的な情報の提供、および性行動に対する自己決定を促すこと。

内容：目に見える形で理解を促すために、ぬいぐるみなどを使い性行為の形態を示しながら感染の可能性について確認する。

(iv) セーフターセックス講義とコンドーム実習

目的：性行為の際に自分を大切に、相手を思いやることのできる方法に関する理解を促す。

内容：男性用コンドーム及び女性用コンドームの特徴、購入方法、使用期限、保存



写真① YSP の全体風景



写真③ コンドーム実習



写真② HIV/AIDS の基礎知識



写真④ 愛情表現ワーク



写真⑤ リンゴのワーク

りんごの皮と実の部分を使って皮膚と
粘膜の違いを理解する

方法、使用方法についての講義および実演。
実習はバナナ等の棒状のものとコンドーム
を使用して実施する。

(v) 愛情表現ワーク

目的：さまざまな愛情について自らのも
つコミュニケーション方法を知り、自己表
現能力を育成する。

内容：自分の大切な人や生き物に対して
その気持ちをどのように表現しているか、
したいかを考え、性行為に限らないコミュ
ニケーションの方法を考える。セルフワー
ク、グループワークを行い、その後、お互い
を理解しあえるよう参加者全員が発表を
行う。

(vi) 共生ワーク

目的：感染者と共に生きる姿勢をつくる
ために感染者の現状を知り、相手の立場と
なって考える視野の広がりや共感する気
持ちは育むこと。

内容：PWA/Hの手記を読み、自分にとっ
て大切な人、家族、友人、パートナー、なら
びに自分自身が感染した場合、どのような
気持ちが生ずるか、どんな言葉をかけるだ
ろうかということセルフワークとして行う。
その後PWA/Hとともにあるためにどのよ
うな人としてありたいかをグループごとに

話し合い、まとめる。その後、全体で発表
することで参加者全員の考えを理解する。

(vii) 情報提供

目的：電話相談・支援活動ならびに保健
所における抗体検査に関する認識を促す。

内容：JHCの電話相談をはじめとする支
援（サポート）活動および保健所の抗体検
査に関する情報（プリント）を配布し、
シェアラーからのメッセージを加える。

所要時間は約2～3時間である。

(4) 倫理面への配慮

本研究は、感染者や当事者によるプライ
バシーに関する助言を得て研究を進め、主
にYSP参加者を対象にプログラムの効果
に関する調査を行ったものである。また、
調査の回答は匿名で行われ、生徒それぞ
れの自発的な判断を前提としているため、
人権上の問題が生じる可能性はない。

C. 研究結果

2001年4月から8月までにYSPに参加
した中学、高等学校学生（計274名）のう
ち、前後のIDが一致した学生は161名で
あった。

(1) 回答にみる認識と行動様式の関連

「AIDS問題を自分自身の問題でもある
と考えるか」に対する回答と「身近な人と
隣に座っておしゃべりできるか」の回答の
関連についての結果(図1)が示すとおり、
AIDSを自分自身の問題と考えている者に
は、隣に座った人と抵抗なくおしゃべり
できるなど、行動様式と認識との間には密
接な関連があることが示された。

また、「AIDS問題を自分自身の問題
でもあると考えるか」に対する回答と「身
近な人と握手をするか」の回答との関連に
ついても、AIDSを自分の問題と考える者に

は身近な人と握手が抵抗なく握手をすると回答した者が多かった (図2)。

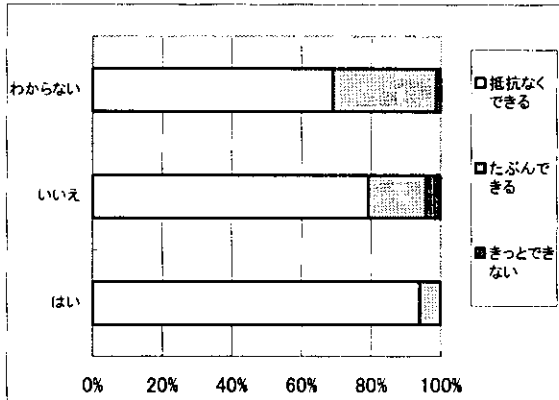


図1 「AIDS問題を自分自身の問題でもあると考えるか」に対する回答と「身近な人と隣に座っておしゃべりできるか」の回答との関連

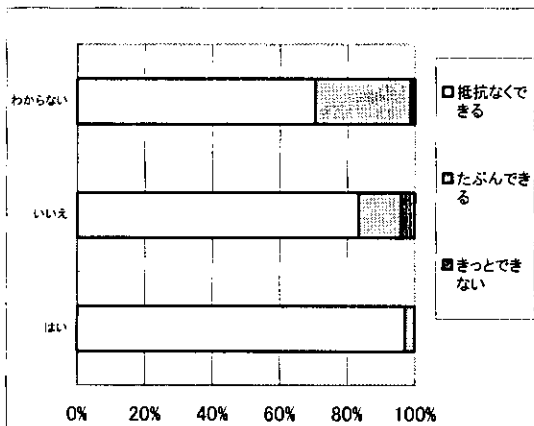


図2 「AIDS問題を自分自身の問題でもあると考えるか」に対する回答と「身近な人と握手をするか」の回答との関連

(2) YSP 実施後の意識

「今回の経験を通して、自分のことを今までよりも考えるようになったと思いますか」という事後の質問にたいする回答

(n=134) の中で「はい」と答えている者は63%であった (図3)。

また、「今回の経験を通して、自分以外の人のことを今までよりも考えるようになったと思いますか」という事後の質問にたいする回答 (n=134) の中で「はい」と答えている者は62%であった (図4)。

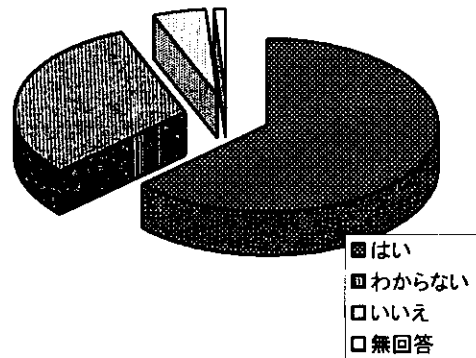


図3 YSP 参加後に「自分のことを今までよりも考えるようになった」と回答した者の割合 (n=134)

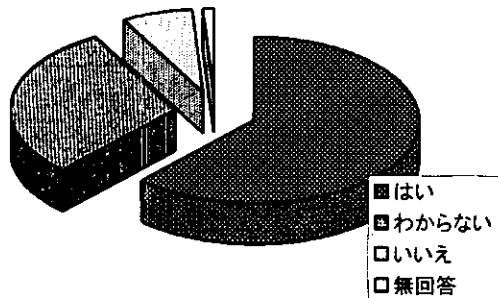


図4 YSP 参加後に「自分のことを今までよりも考えるようになった」と回答した者の割合 (n=134)

「参加してよかったと思う」と答えている者は62%であった (図5)。

「若い人が進めたことについてはどうでしたか」という事後の質問にたいする回答 (n=134) の中で「はい」と答えている者は60%であった (図6)。

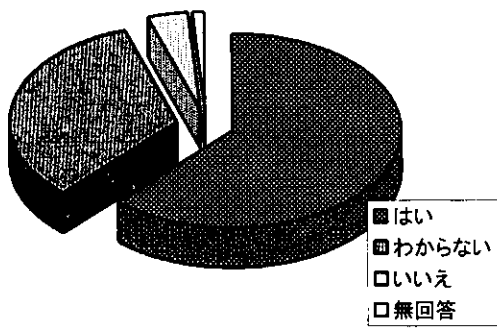


図5 YSPに「参加してよかった」と回答した者の割合(n=134)

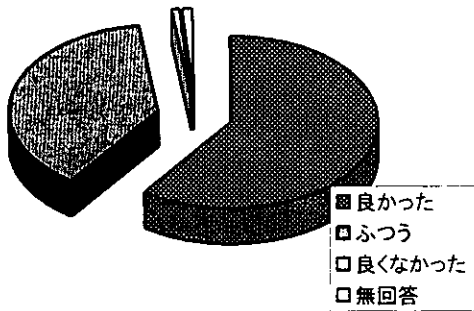


図6 YSPを「若い人たちが進めたこと」に対する回答者の割合(n=134)

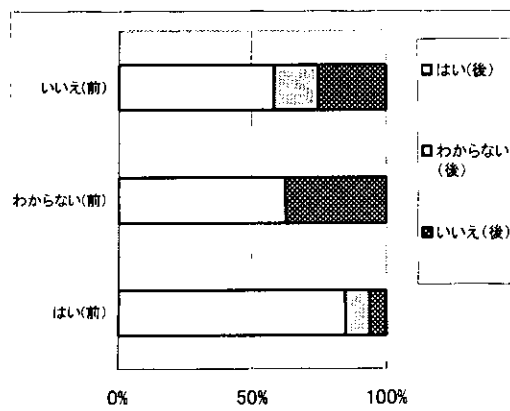


図7 YSP参加前後の「AIDS問題を自分自身の問題でもあると考えるか」に対する回答の関連

(3) YSP参加前後の変化

YSP参加前後の「AIDS問題を自分自身の問題でもあると考えるか」に対する回答の関連をみると、参加前に「いいえ」と答えた者のうち58%が「はい」と答えた。同様に、参加前に「わからない」と答えた者のうち63%が「はい」と答えた(図7)。これらの回答の変化にみるように、参加後はAIDSを自らの問題としてとらえる認識が顕著に増加した。

「HIVが感染する可能性のあるもの」

(体液)に関する質問について実施前と実施後の回答と比較すると、血液については92%が98%に、精液については79%が95%に、また膣分泌液は48%から86%に、母乳は37%から82%へと、正解率が増加した。特に膣分泌液と母乳について顕著な変化がみられた(図8)。

「HIVが感染する可能性のあるもの」(行為)に関する質問について実施前と実施後の回答における正解率は、性行為が92%から95%へ、注射針共用が89%から98%へ、母子感染が76%から93%へと、それぞれ増加した(図9)。特に母子感染に関する理解が深まったといえる。

「身近な人と飲み物の回しのみができますか」と「PWAと飲み物の回しのみができますか」の回答について、YSP実施前後の分布を比較すると、実施前に「身近な人と抵抗なくできる」と回答したものでは「PWAとできる」と回答した者の割合は66%から88%へ、22%の増加があり、実施前に身近な人と「たぶんできる」と回答した者では、実施前の43%から実施後には74%へと31%の増加となった(図10)。

これらの結果は、YSPにおける知識や共生のワークショップを経験することにより、HIV/AIDSに関する知識や認識の変化だけでなく、行動にも変化が生じる可能性を示しているといえる。

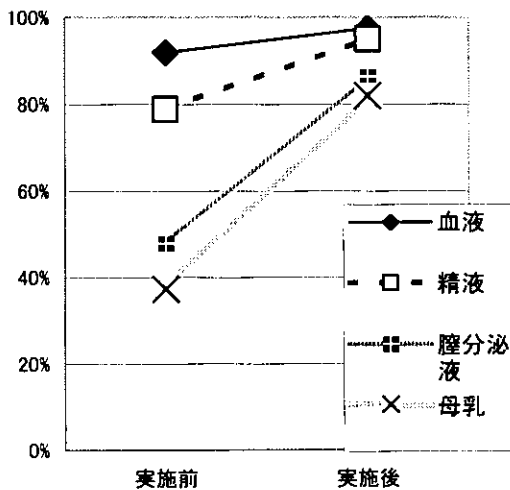


図8 HIVが感染する可能性のある体液に関する回答の前後比較

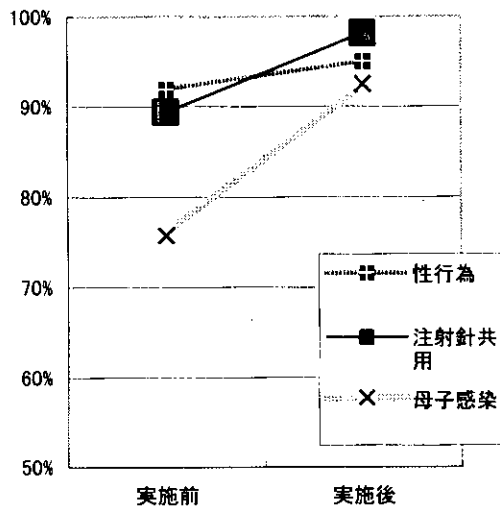


図9 HIVが感染する可能性のある行為に関する回答の前後比較

また、これらの結果はその後に継続調査されている複数校においても同様の結果が確認されている。(別項参照)

さらに、実施後の生徒らの自由記述では、わかりやすい、質問しやすい、自分自身の問題であることを実感した等の感想があげられた。

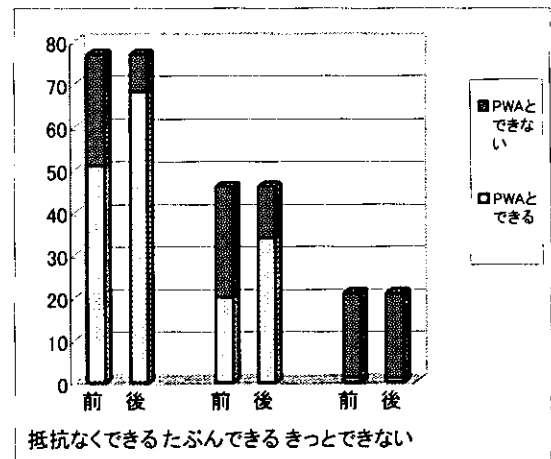


図10 「身近な人と飲み物の回しのみができますか」と「PWAと飲み物の回しのみができますか」の回答 (YSP 前後) の関連

D. 考察

1) 同一回答者における YSP 実施前後の変化

保健所・教育機関ならびに NGO の連携のもとに行われる若者相互の啓発プログラム (YSP) の効果を評価するために、YSP の実施前後に参加者を対象とするアンケート調査を実施することによって、参加者自身の認識や行動様式における変化が確認された。今後、同様の調査を実施することにより、啓発効果を明らかにすることができると期待される。また、本パイロット調査研究の結果は、YSP による次のような効果がある可能性をも示唆している。

(1) 啓発効果

近年、若者の間に HIV 感染の拡大があることが指摘されているが、若者に対する短時間の啓発プログラムによって HIV/AIDS に関する効果的な知識の向上、意識・態度の変化が得られることの意義は大きい。

本調査研究において対象とした、若者自身によるヤング・シェアリング・プログラム (YSP) は、若い世代が関わることにより、短時間での自己開示や性や AIDS に対

する自由な意見の交換などがなされることが可能となることを示している。これは、シェアラーが HIV と人権・情報センターの電話相談員スタッフとしての研修を受け、実際の電話相談や感染者支援活動に従事しているため、傾聴の技術が獲得されていることによって一定の対人援助の展開及びグループワークのファシリテーターとしての役割が果たされることからくるものであるといえよう。その結果として、短時間で自己開示、意見交換の機会が得られ、HIV や AIDS に関する知識の向上だけでなく、意識や態度の変化につながっているのではないかと考えられる。

(2) 保健所の事業にたいする理解と活用

保健所は必ずしも若者にとって身近な存在であるとはいえないが、YSP のプログラムには保健所の抗体検査や相談事業についての情報提供をも含まれている。事後に、「検査に行った」などの報告を直接に受けることもあり、啓発の直接的な効果として保健所の機能についての認識と抗体検査の利用者が増加することが期待される。

(2) NGO に関する認識が得られる、

NGO としての HIV と人権・情報センターの事業として若者を対象として YSP を行うことにより、NGO の存在および、電話相談や直接支援も含めた継続的な支援体制などの事業を実施していることに対する認識が参加者の間で得られると期待される。

(3) 保健所と NGO 相互の連携強化

YSP のプログラムは、学校・保健所などと共同で企画立案することによって実施が可能となる。計画の過程は NGO の活動に対する保健所の認識を得る機会ともなり、事後の相互の連携をとおして継続的な啓発活動や感染者に対する支援体制の強化につながる可能性がある。

(4) 教育機関との連携

YSP の実施は、保健所・NGO の双方と教育機関との連携の契機となり、これまで各機関の担当者の熱意に委ねられていた HIV に関する啓発事業において、三者間のネットワーク化に繋がる可能性もある。

以上、YSP の取り組みは、(1)短時間で効果的な若者に対する啓発の効果が得られることのほか、(2)啓発の直接的な効果としての保健所抗体検査の利用者の増加、(3)NGO に関する認識、(4)保健所・NGO 相互の連携強化、(5) 保健所・NGO 双方にとって教育機関との連携、などの効果が期待される。

2) 同様の方法による 2 校（高等学校）における YSP 実施前後の変化

今回の調査結果に示した同一回答者における YSP 実施前後の変化に関する評価と同様の方法を用いて、参加者に YSP 実施前後のアンケート調査を実施した 2 つの高等学校について、その結果を参考図として示した。その結果は、概ね上記と同じ内容であった。

今後は、さらに多くの参加者について、より詳細な分析を行い、今後の NGO と行政、教育機関等との連携の可能性の拡大に結びつけることを期待している。

E. 結論

保健所・教育機関・NGO の連携のもとに YSP を実施することを通して短時間で効果的な若者に対する啓発の効果が得られる可能性が示唆された。若者相互の啓発プログラム (YSP) の実施前後に参加者を対象とするアンケート調査を実施することによって、参加者自身の認識や行動様式における変化が確認され、今後、同様の調査を実施することにより、啓発効果を明らかにすることができるかと期待される。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 五島真理為、伊藤葉子；AIDS 問題におけるソーシャルワーク的視点と課題、社会福祉研究 80；140 - 143,2001

2. 学会発表

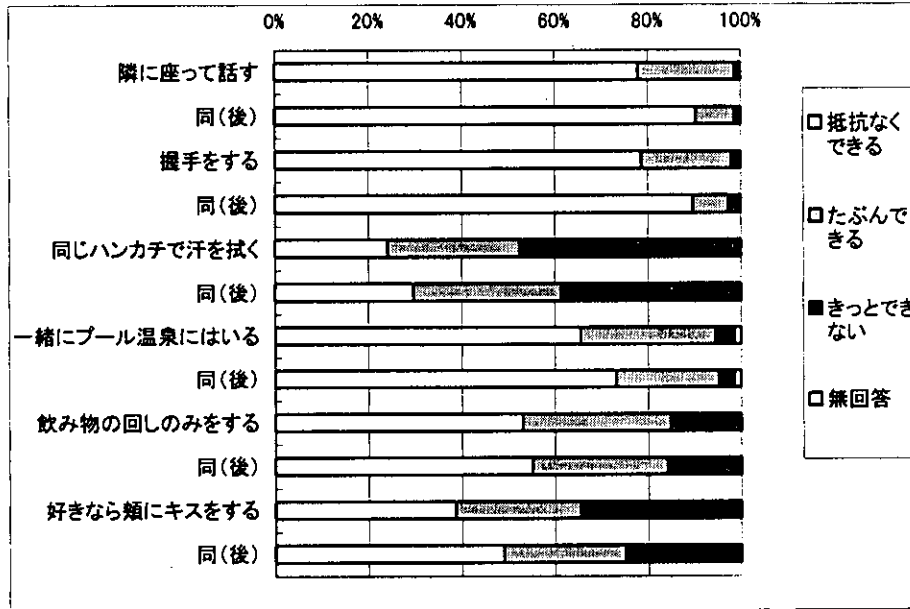
- 1) 五島真理為、伊藤葉子他；Young Sharing Program for AIDS Prevention,第 6 回アジア太平洋地域国際 AIDS 会議、2001
- 2) 五島真理為、伊藤葉子他；エイズに関する普及啓発における非政府組織(NGO)の活用に関する研究その 7 ヤング・シェアリング・プログラムの評価、第 15 回日本エイズ学会、2001

H. 知的財産権の出願・登録状況

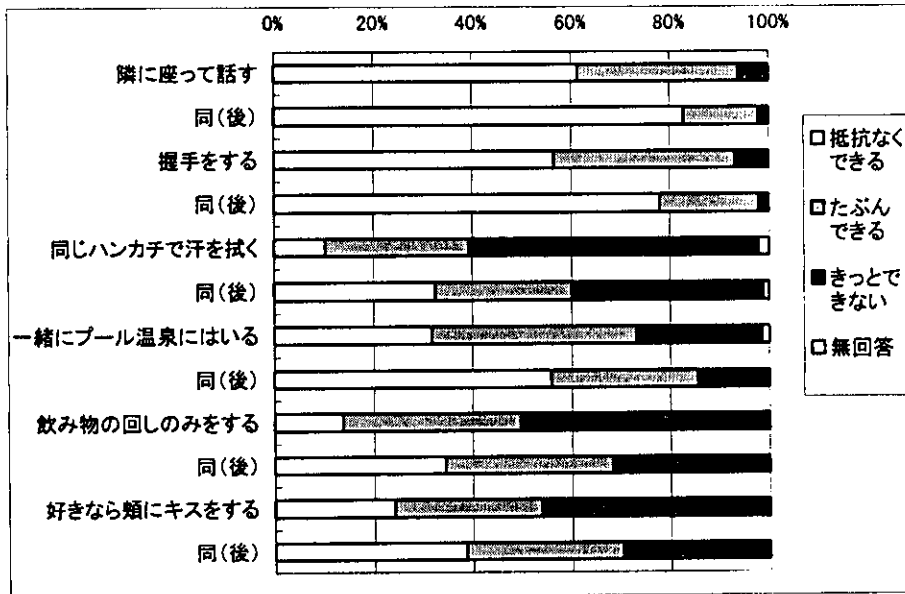
1. 特許取得 なし
 2. 実用新案登録 なし
- その他 なし

参考図：2校（高等学校）における YSP 実施前後の参加者の反応の比較

身近な人が感染者だとして以下のことができるか（A校 134名）



身近な人が感染者だとして以下のことができるか（B校 351名）



YSPに参加した高校生の反応

感想 (A校)

- ・ 親や先生たちに聞けないことを聞けたし、友達とも話しやすくよかった。
- ・ 気軽に話しかけてくれたりして、とても楽しく学べた。
- ・ 自分の質問にもわかりやすくこたえてくれた。
- ・ これから役に立つと思った。
- ・ いろいろ身について勉強になった。
- ・ とてもためになった。
- ・ こういうことはめったにないと思うのですごくよかった。
- ・ とてもよい勉強になった。
- ・ 大切なことだと思った。
- ・ とてもよい経験になった。来てくれてありがとう。
- ・ 学校の先生が体育館の中になかったのが良かった。
- ・ すごく勉強になって楽しかった。私たちのこれからはすごく長いので体を大切にしていきたいと思った。
- ・ 自分の体と彼氏の体が心配になって検査に行こうと思った。
- ・ スキと人に気持ちをぶつけるということを考えなおしてみるとむずかしいことだなと思った。
- ・ これから卒業していろんな人と出会いがあると思うし HIV 感染者の人に会うかもしれないけど、ふつうに接したいと思う。いい経験になった。
- ・ 自分の身近な人がもし感染していたらどうするかを紙に書くところは、いっぱい書いた！！
- ・ AIDS の事で今日やってみて、まだ実感はないけど他人を思いやらなきゃいけないと思った。
- ・ エイズに対するイメージが変わった。
- ・ エイズは怖いというイメージが強かったけど話を聞いて予防法や治療法があることを知った。怖いというイメージが少しなくなった。
- ・ 女性用のゴムを生で見れて、ふれて、いい経験ができた。
- ・ バナナにコンドームをつけるのおもしろかった。
- ・ 粗品ありがとうございました。ヒマができれば保健所に調べに行きたい。
- ・ いろいろもらえてよかった。
- ・ いやらしく感じなかった。

- ・ 性行為で「ひにん」するのは子どもができたらダメだからってだけじゃなくて色々な病気の感染をふせぐことにもなるんだなって思った。
- ・ こんな風にするのはとてもよいことだと思うので、これからもいろいろな所でやってほしい。
- ・ すごく身近に考えなければいけないなと思った。
- ・ 2時間も座りっぱなしでいやだと最初は思ったけど、時間がたつのも早くて苦にならなかった。
- ・ 「質問ある人！」などと聞くのではなく、一つ一つのグループの所にまわってきてくれて分かりやすかった。
- ・ 最初ももっとかたつくしいやつかと思っていたけど全然ちがった。
- ・ 初めて見えたものがあった。
- ・ 今回の話を聞いて絶対けんけつに行こうと思った。

感想 (B校)

- ・ 思わぬ経験がいろいろできて楽しかった。
- ・ 普段なかなか聞くことのできない貴重な話が聞けた。
- ・ すごくためになったと思う。
- ・ このような時を持つことも大切だと思った。
- ・ 知らないことが多かった。
- ・ こんなに詳しく説明してもらったのは初めてだった。
- ・ わかりやすかった。
- ・ ていねいでよかった。
- ・ 資料だけよりもエイズのことがよくわかった。
- ・ 性感染の予防はしっかりしようと思う。
- ・ 当たり前のことをあらためて理解した（人を守るのは人であること等）。
- ・ 自分自身の問題であることを実感した
- ・ 自覚を持たなければと思えるようになった。
- ・ はじめは体験を嫌がったけど一度さわっておいで良かったと思っている。
- ・ AIDS について教えるのではなく、自由に学ばせるのがいいと思う。
- ・ AIDS のことをこんなに考えたことがなかったの でいい体験をした。
- ・ たまにこういう問題などをみんなで話し合うことは良いことであると思った。
- ・ 今回、話をきいて AIDS に対してプラスに考えられるようになった。

- ここまで詳しく話してくれる人なんてそういない。今日話してくれた人は私たちのことをきちんと考えてくれているんだと思った。
- 今まで知らなかった事や知ろうとしなかったことがあったので、AIDS や性に対する思いやイメージが良い方に変わったと思う。
- ちょっと恥ずかしかったところもあったけど、今後生きていく中で知っておかないと困ることなので知ることができて自分のためになって良かったなどと思う。
- ふだん知ることができないし、人に聞くこともできないのでこの機会に学べてよかった。
- 女性用コンドームがあるのに驚いた。
- コンドームの正しい使い方を教えてもらったのがよかった。
- 最初は笑ってばかりだったけど、実際始まってみるとみんな真剣で、大切に感じることができてよかった。
- 自分はAIDSについて何も知らないのに勝手な偏見を持っていたことがつくづくわかった。
- エイズは遺伝するものと思っていたけれど間違いだと初めて知った。
- エイズで亡くなる人が少なくなっているのを知ってうれしかった。

若い人たちが進めてよかった理由 (A校)

- 年が近いので話しやすい。
- 先生たちと違って自分の事も言いやすい。
- 親近感がわいた。フレンドリー。
- あまり遠慮しなくて良かった。ふつうに話ができた。気軽に話ができた。
- 堅苦しくない。リラックスした感じ。楽しい。
- 考えなども似たような感じ。若い人だからわかってくれる。
- 興味をもって聞くことができた。
- わかりやすい。聞きやすい。
- 優しい。
- 熱心に伝えてくれた。
- 話しかけてくれた。

若い人たちが進めてよかった理由 (B校)

- 親近感がわく 身近に感じられる 親しみやすい

- 安心できる リラックスできる かたくない 気軽 緊張しない
- 楽しい 明るい 和ませてくれる おもしろい
- 自然な感じ 抵抗がない
- 無理矢理教えられてる感じがしない 考えを押しつけられてる感じがしない
- 優しい 親切
- 自分と同じ立場にたって話をしてくれる 気持ちがよく似ている より理解してくれる
- 友達のような感じ
- 聞きやすい 素直に聞ける 話しやすい 気軽に呼んで教えてもらえる
- 話し方がうまい わかりやすい
- 説得力がある
- 一生懸命
- 現実感がある
- ふだん授業ではあまり言わないことを言ってくれる
- 若い人たちがAIDSに関心をもったり仕事にしていって心強い

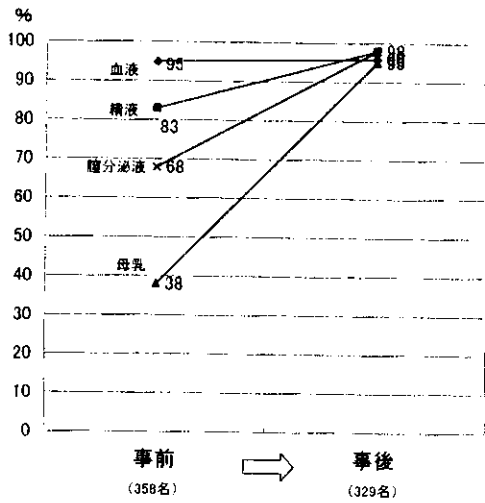
若い人たちにこだわらないという意見

- 年齢は関係ない
- 誰でもよい
- 特に気にしない
-

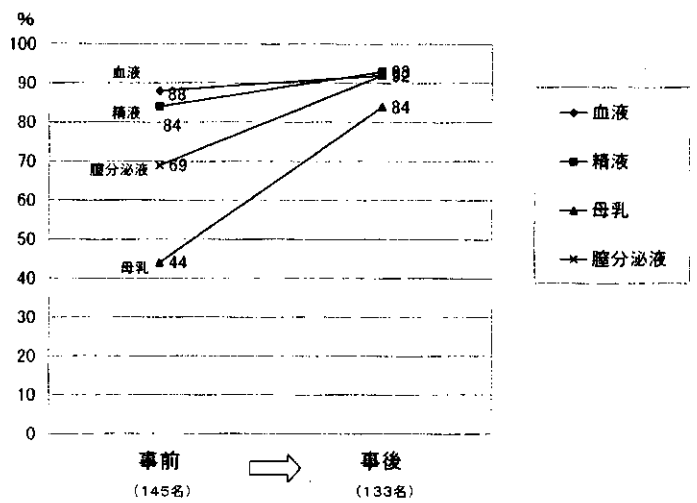
講演について

- 自分と比べて考えることができよかった。感動した。世界にはいろんな子どもがいるんだなあと思い助けてあげたいと思った。差別がとても厳しいのだと思い知った。自分たちの視野の狭さや自己中心がとてもはずかしいしこのままではいけないと思った。薬がとても高く、平等ではないというのはがっかりした。薬の権利のために患者が死んでいく現実などこれからの世界の問題にAIDSが深くかかわっているのだと知った。ストリートチルドレンの話にグッときた。とても心が痛かった。自分は恵まれていると思う。
- みなさんががんばってください。ご苦勞様。ありがとうございました。

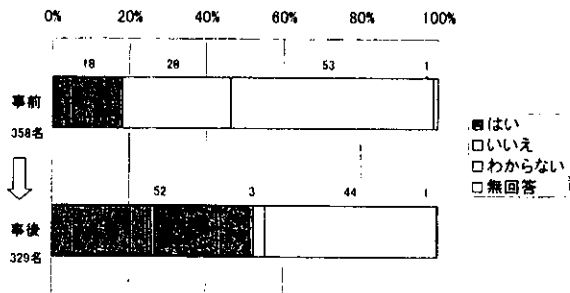
感染の可能性のある体液の正解率



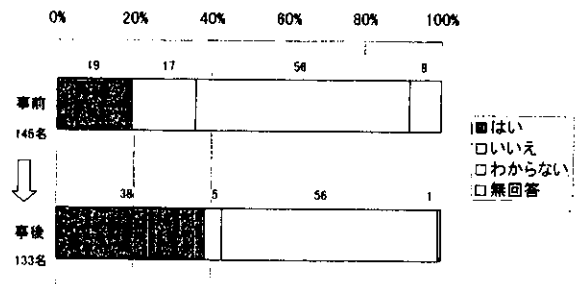
感染の可能性のある体液の正解率



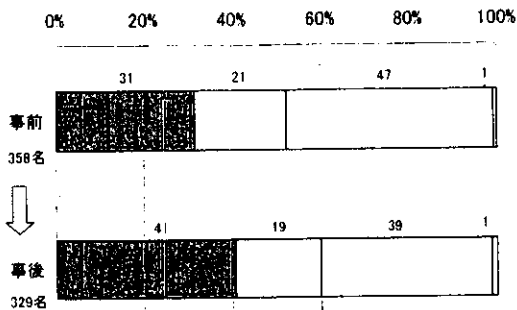
AIDSの問題を自分自身の問題として考えられますか



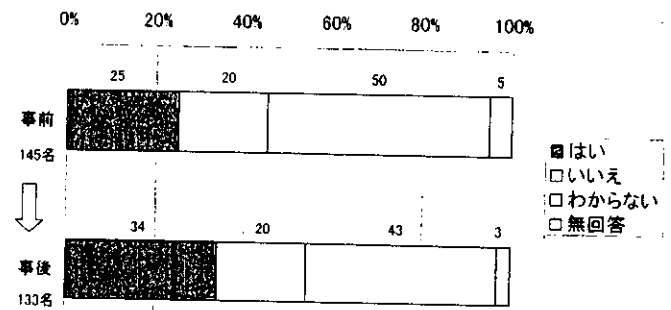
AIDSの問題を自分自身の問題として考えられますか



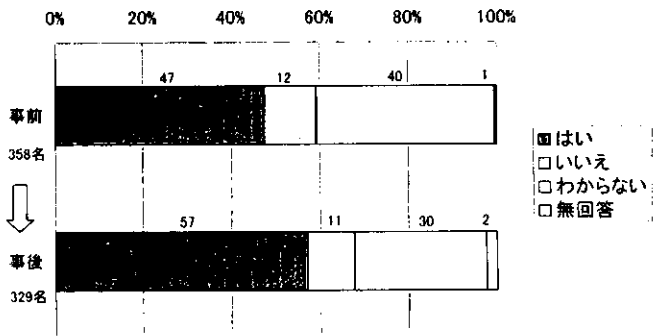
自分のことが好きですか



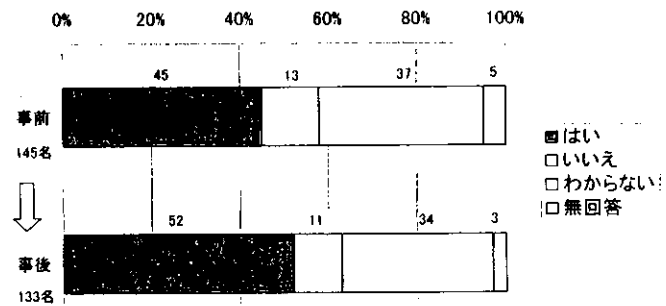
自分のことが好きですか



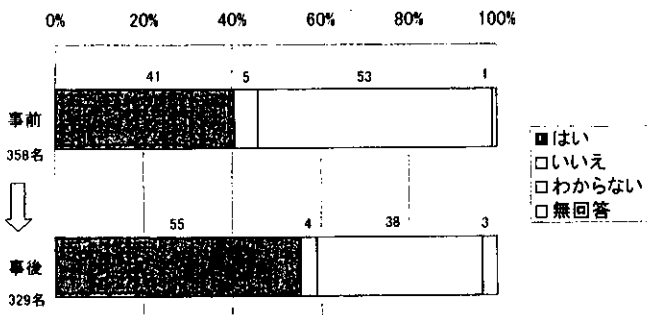
自分の心と身体を大切にしていますか



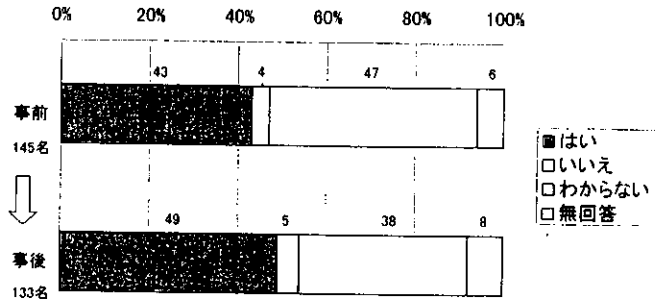
自分の心と身体を大切にしていますか



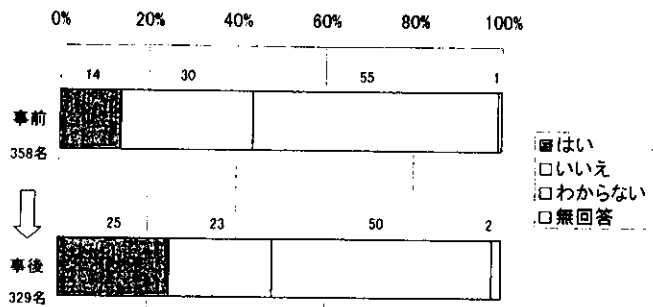
自分以外の人々の心と身体を大切にしていますか



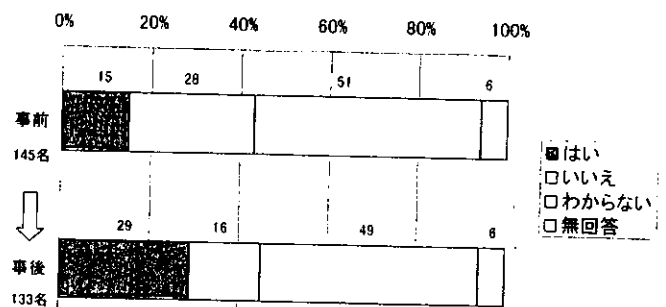
自分以外の人々の心と身体を大切にしていますか



AIDSや性について友達などと話してみたいと思いますか

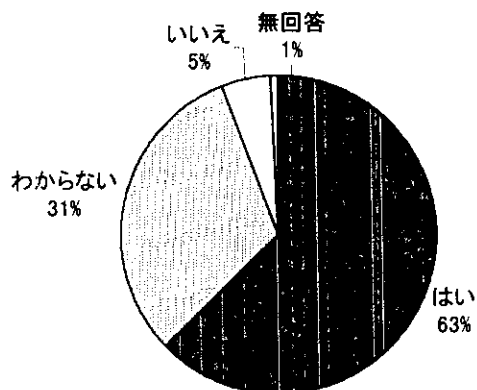


AIDSや性について友達などと話してみたいと思いますか



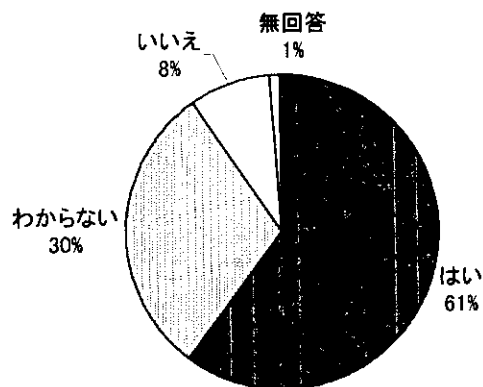
今回の経験を通して、自分のことを今までよりも考えるようになったと思いますか

(A校134名)



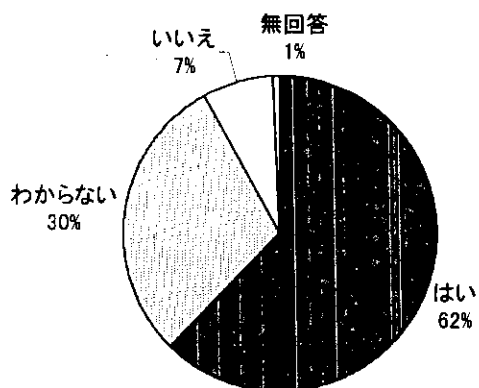
今回の経験を通して、自分のことを今までよりも考えるようになったと思いますか

(B校351名)



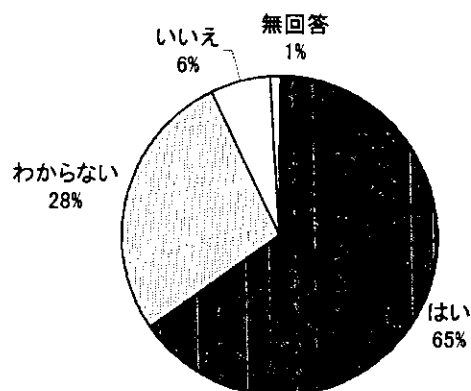
今回の経験を通して、自分以外の人のことを今までよりも考えるようになったと思いますか

(A校134名)



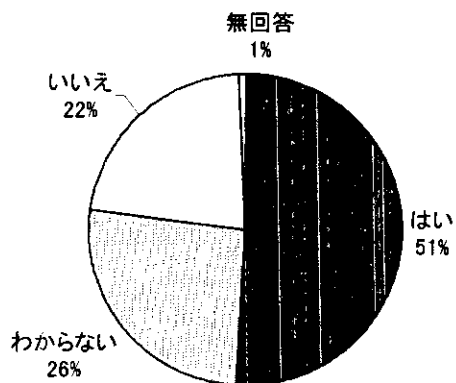
今回の経験を通して、自分以外の人のことを今までよりも考えるようになったと思いますか

(B校351名)



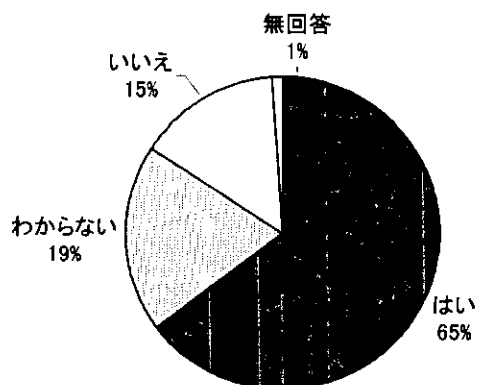
AIDSのイメージは変わったと思いますか

(A校134名)



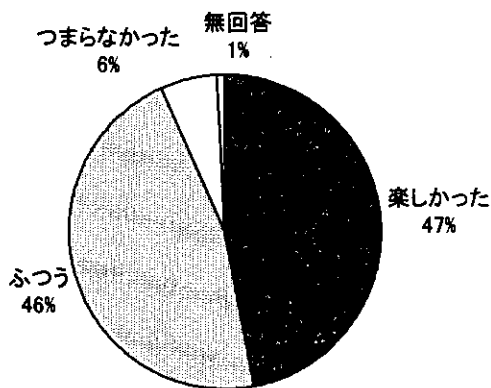
AIDSのイメージは変わったと思いますか

(B校351名)



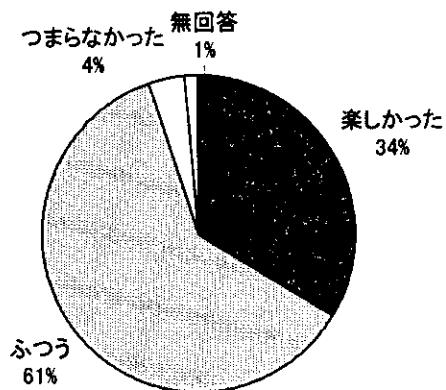
参加して楽しかったですか

(A校134名)



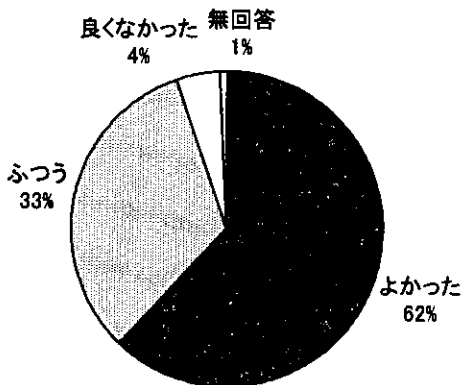
参加して楽しかったですか

(B校351名)



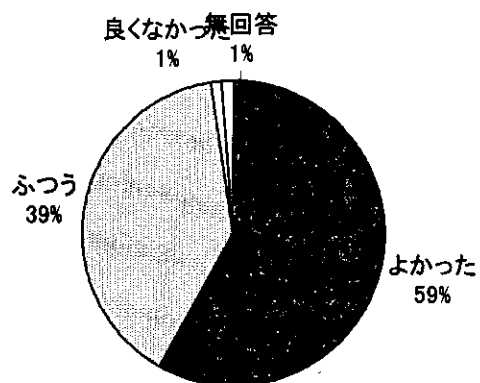
参加して良かったと思いますか

(A校134名)



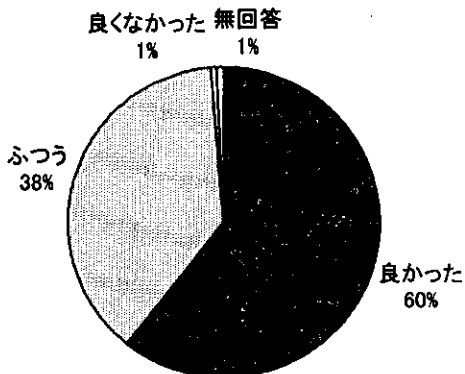
参加して良かったと思いますか

(B校351名)



若い人たちが進めたのはどうでしたか

(A校134名)



若い人たちが進めたのはどうでしたか

(B校351名)

